



羽黒山

所に広い石畳があり、そこに、宮島型の大きな鳥居が建てられてあった。

頂上までの石段は高い所ほど大きな石が用いられ、往時の人情の淳朴さと信仰の深さがうかがわれる。頂上の境内は広く、立派なお宮が建てられてあったが、今は朽ち果ててその面影もなくなってしまった。

頂上の四季の眺めはまた格別である。江花八景の一つとして、高土山の暮雪、一斛田の落雁、羽黒山の秋の月と称せられたそうだが、今は登る人も稀で昔の語り草となっている。

(話者 柏村英一)

石背国造神社由来

《長 沼》

郷社、石背国造神社は豊町に鎮座されていて、明治四年、国造戸上神社と諏訪大明神社が合祀されて、石背国造神社の称号となった。

国造戸上神社は、昔、日高見山に創建して、国造建弥依米命を祀り、国造の裔孫が祭祀の職を世襲したという。宝亀年間、国造の裔孫、磐瀬朝臣人上の靈を配祀して、国造人上神社と称した。